

# 【R7年度】児童発達支援職員自己評価結果表

公表： 2026年 2月 25日

事業所名:子ども・子育てサポートセンターまなび舎

R7年度	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	・子どもの状態にあわせてサポートしたり、手厚いフォローができていると思う ・後ろにつくサポート者の確認、安全に安心して子供が療育を受けられるように配慮して配置している	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境やバリアフリーになっているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・入り口にはスロープが設置されており、バリアフリーに考慮された環境になっている	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・子どもたちの活動や療育が、安心安全に行えるよう、スペースをなるべく広くとるようにしている ・毎日の清掃、遊具や教材の消毒をきちんと行っている ・毎日床消毒をかねて掃除を行っている	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・子どもの気持ちが落ち着かない時は、個別で好きな玩具で遊ぶなどできる場所がある	
業務 改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・個別記録を確認し、療育を組んでいる ・毎回記録や個人ファイルを確認し、療育のプログラムを組んでいる ・他の先生とも相談して、内容を考えている	・計画通りに支援し、記録を根拠に振り返り、次の支援をより良いものにするためのPCDAサイクルを個人が強く意識できるよう、職員会議で共有を強化する
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・年度末のアンケートに目を通している	・保護者からの意見を踏まえた業務改善を、具体的かつ見えるように意識していく
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・子どもに関する情報は常に共有している ・話し合いをしやすい環境で意見交換できている ・職員会議で子どもたちの近況を確認しあったり、その都度子どもや家庭の状況を伝え合ったりしている	・引き続き定例職員会議を行うと共に、短時間で日々の気付きを伝えあえるハドルミーティングの機会を増やしていきたい
9 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・療育内容を職員間で伝え合っている		
適切な 支援の 提供	10 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・毎年全てホームページに記載されている	
	11 こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・個別支援計画は共通理解されている	・保護者からの聞き取りや、子どもの様子から分析する ・見えた行動をそのまま評価せず、背景や理由まで考えることが重要と考える
	12 児童発達支援計画の作成には、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮されているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・常にこどもについては話し合っている ・一番は子どもの成長を考えている ・支援に関わる職員全員で話し合いを行い、子どもの成長を最優先に考え、立案している	
	13 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・療育内容を考えるとき、支援計画をみている ・優先順位を確認している	・支援計画⇒子どもの姿(記録)⇒保護者や家庭環境⇒まなび舎の療育や関わり方を思案⇒実施、までの流れを絶やすことなく共有する
	14 こどもの適応行動の状況を、標準的な成長指数や日々の行動観察といったアセスメントを使用する等により確認しているか。	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	・0～5歳の発達の日安シートを参考に、少しずつステップアップできる課題の提示や、サポートを心掛ける ・担当する子に対して、成長するために何が必要か確認しながらプログラムをたてている	・アセスメントの活用を具体的に考える ・数値化による情報共有のスピードアップを図る
	15 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人」「家族」「移行」支援及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえ、支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	・家庭環境やその時々家庭内の状況が、子どもの姿に大きく影響があるため、保護者からの相談に丁寧に対応して、一緒に解決策を見つけていく	
	16 活動プログラムを職員間で相談しながら行っているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・子どもの発達やその時の心理状況なども細やかに共有し、プログラムの作成に活かしている ・報連相を徹底することで、今、必要としている支援は何かをみんなで考え、最大限のサポートに繋げる ・課題内容を確認してもらうよう心掛けている ・空いている時間で先生たちと相談して、集団運動の課題などを決めている ・新しいことをする際は、事前に相談したり、一度療育者たちで行ったりしてから行うようにしている	・子どもだけでなく、職員のスキルアップや自信に繋がるような活動プログラムを、経験のある職員のサポートで進めていく ・共に学びあえる環境を大切にする
17 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・新しい教材の導入や、新しい観点からの使用で、子どもが飽きないよう工夫をしている ・一人ひとりの興味、関心を見つけながら、意欲的に楽しく療育を受けれる課題や教材を工夫している ・子どもの発達に合わせて、レベルの調整を都度行う ・絵本、パネルシアターの時間では、子どもたちが一時間ほど集中と緊張感の中で頑張った後の、ほっと気が緩む時間と捉え、子どもたちが興味あるものやユーモアがある絵本、生命や食事、生き物に関するものから、年間行事への関心を育むものまで、幅広く楽しめるものを心掛けて準備している ・過去の療育内容を考慮し、プログラムの立案を行う ・記録を確認しながら、子どもたちが飽きないようなプログラムを心掛けている ・過去のノートを見たり、支援計画を見たりして、重複のないようにしている ・前回の療育内容と重ならないようにしている		

関係機関や保護者との連携	18	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・それぞれの支援計画を確認しながら、活動がマンネリ化しないよう考えている。	・静と動を意識したプログラムで、子どもの切り替える力を育む
	19	支援開始前には職員間で、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、連携して支援を行っているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・継続してやりたい課題、次に取り組んでほしい課題などを、その都度共有し、継続することで力を伸ばせるよう心掛けている ・朝礼にて、一日の流れや注意すべき事項を全職員で周知し、事前に配慮することで事故やけがの防止に繋げる ・変更があったときもその都度伝え合っている ・朝礼にてその日の流れや必要なことを把握している ・サポートや記録につく療育者に、意図やサポートしてほしいところなどを伝えている	・朝礼の重要性を再認識、情報共有こそがチーム力の要と考える
			14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・子どもの姿や保護者さんの様子を伝えあうことで、次の療育の課題や、配慮すべき点を考慮している ・よく話をしていると思う ・療育内容や子どもの様子を共有して次につなげる支援を考えている ・休みの職員にはメモを残したり、記録に記入し共有できるようにしている ・休憩や朝礼で意見交換や共通理解を図る	・当たり前に情報や気付きを共有し、話し合える環境作りが重要
	21	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・記録は簡潔で、見やすさを心掛けている ・次回の課題作りの参考になるポイントを捉えやすいよう、工夫している ・細かく記録し、子どもの様子を共有し話し合う ・毎回活動内容を記録している	・子どもの細やかな様子を共有できるよう、他の職員の気付き等を加筆し、精度をあげていきたい
			14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・子どもの姿を確認し合う中で、次の狙いとするものを探り、確実なステップアップに繋げていく ・支援者さんからのアドバイスも教えてもらっている	
22	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)			
関係機関や保護者との連携	23	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・必要に応じて、関係機関で話し合いの場を持ち、適切な対応を行い、温かい支援に繋げる ・その子を多く担当する療育者が行っている ・児発官の先生が参加している	
	24	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・近隣のしもむら内科さんと連携をとっている	
	25	併行利用や移行に向けた支援を行う際、保育所、幼稚園等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・5歳児検診報告会に参加している ・入園に向けての引継ぎ会へ参加する	
	26	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・小学校入学前の引継ぎ会に参加している ・子どもの様子がわかりやすいように引継ぎ書類に記入し、会議でも細かく学校側に伝えている ・入学へ向けての引継ぎ会へ行っている	・質を保ちつつ、資料作り等の職員業務負担の軽減が課題になる
			12 (86%)	2 (14%)	0 (0%)	・支援の質を上げることを目的として、アドバイザーや講師を招くことを来年度に向けて計画している ・支援の質を上げるために、作業療法士さんから学ぶ機会を設けてもらった	・評価やダメ出しではなく、「支援の質を上げる」ことを意識し取り組んでいく
	28	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・一人ひとりの子どもの発達や状況理解が更なる成長につながるため、常に意識をして見守っていく ・毎回のフィードバック時に常に聞いている ・療育の様子を丁寧にフィードバックして、家庭での様子を伺いながら共有している ・療育内容をフィードバックを伝える際、近況を伺った療育以外のお子さんの様子を伝えている	・子どもの発達に関する認識のすり合わせをフィードバック時に行うことで、次に行うべき課題の精度を上げていく
14 (100%)			0 (0%)	0 (0%)	・保護者の思いを大切に、アドバイスを受けやすいように話す工夫をしている ・保護者と関りが、子どもの姿に大きく影響することを理解してもらえよう心掛けている ・共に心の健康を大切にもらえる関りを考える ・子育て相談は常に受けられるよう、声掛けを行う ・保護者の方の悩みを共感し、聞き取りながら一緒にお子さんを支援できるよう、サポートしている ・保護者の方から相談があったら話を聞いたり、児発官の先生に引継ぎをしている	・子どもの成長の為に保護者との信頼関係が必要不可欠と考え、毎回のフィードバックや声掛けを通じ、関係を築いていく	
保護者への説明等	30	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・契約時に行っている	
	31	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	・普段のフィードバックから得た家族の要望も、メモを取ることで取り入れられるよう工夫している	
			14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・説明後に印を押してもらい、同意を得ている	
	33	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・フィードバック時に相談しやすいよう心掛けている ・児発官の先生に保護者の方へ声を掛けてもらったり、保護者の方からの話も聞くようにしている ・相談してもらいやすい関係を築けるようにしている ・相談に対して答えが出ない時は、上司などに伝え対応してもらっている	・保護者が声を掛けやすい雰囲気作りを意識する
			14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・契約時の説明に加え、第三者委員を設置し、細やかな対応を心掛けている	
	35	定期的にHPや掲示板で、活動概要や自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・廊下のホワイトボードで報告されている	
36	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・研修を受けている		

非常時等の対応	37	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・最も配慮すべき部分と思い、気を付けている ・フィードバック時に話をする	
	38	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・いつでも読める場所に配置しており、定期的に研修や訓練を行っている	
	39	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な研修を行っているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・災害時に必要な資材の見直しや、有事の際の対応を研修で確認し合っている	・マニュアルの更新、見直しの強化を図る
	40	服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの利用がある場合、事前に状況を確認しているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・あった場合はすぐに対応し、共通理解している	
	41	安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・避難訓練、遊具点検を定期的に行っている ・体育用具を使用する時は、安全に取り組めるように、支えるサポートをしている	・チェックシート等を用いて、個人が責任感を持って取り組めるような工夫をする
	42	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)		
	43	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	・職員会議や朝礼で共有し、対策を考えている ・ヒヤリハットが起きてしまったときは隠したりそのままにすることなく、次に起こらないよう話し合っている	・ヒヤリハットノートの活用
	44	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	・毎年二回研修を受けている ・職員の研修機会を設ける必要がある ・褒める、認めることで自己肯定感が高まり、意欲的な活動につながることを、伝えている	・引き続き、声掛けや研修等で虐待への意識を高める
	45	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	13 (93%)	1 (7%)	0 (0%)	・職員の研修機会を設ける必要がある ・契約時やフィードバック時に話をしている	・職員間で共通理解を進められるよう、研修の内容についてのアップグレードを考える

【まとめ】

- ・昨年度の自己評価を踏まえ、職員会議や話し合いの機会を増やすことで、職員同士の情報や意識の共有を進めることができた。
- ・今まで以上に自己評価シートを"自分事"として重要視するため、事前に研修を行ったことで、職員が意欲的に取り組めるようになった。
- ・職員が積極的に発言できる場を作ることが、問題の早期発見・早期解決につながることを再認識し、引き続き交流の機会を積極的に設ける。
- ・一方で、知識面・技術面での向上を希望する職員も見られたため、全ての職員が外部及び事業所内での研修を受けられるよう、ZOOMの活用やシフト等に配慮する。
- ・また、まなび舎が考える"子ども一人一人に寄り添った支援"を行うためには、細やかな家庭支援やペアレントトレーニングが必要になると考える為、保護者への積極的な声掛けや、子どもの様子の共有、悩み事を相談しやすい雰囲気作りに一層力を入れていきたい。